

令和2年度 第10回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年1月8日（金）	教 育 長 坂 元 裕 人	教育総務課長 鹿 屋 勉
午後2時00分	教 育 委 員 田 原 正 人	学校教育課長 今 井 誠
↓		
午後3時10分	教 育 委 員 葛 迫 幸 平	社会教育課長 紺 屋 昭 男
第2研修室	教 育 委 員 田之上 厚美	国体推進課長 米 田 昭 嗣
	教 育 委 員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和2年度第10回教育委員会定例会を開会した。

2 令和2年度第9回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

議案なし

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案なし			

議 事 内 容 等

3 議 事	議案なし
4 その他	なし
5 委員並び に教育長及 び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	水之上小学校 2 年生からの年賀状について 水之上小学校 2 年生から、かわいい年賀状をもらった。 昨年 10 月 23 日に「地域探検」という学習で、三和センターに来た子どもたちからのお礼の年賀状である。この学習は、子どもたちが地域内の生きたい施設を訪問して、質問したり見学したりして調べ、学習した内容を壁新聞にするという学習で、 「公民館はどんな仕事をするところですか。」 「仕事で大変なところはどんなところですか。」 「嬉しいときはどんなときですか。」 など、かわいい質問や鋭い質問を受けた。 2 年生にも分かるように説明するのは、結構言葉を選ばないといけないので苦労した。メモが取れるようにゆっくりと話し、難しい単語は使わず、より分かりやすい単語に言い換えて話さなければならず、1 時間の授業が終わるとどっと疲れたが、子どもたちの満足気な表情を見て大きな喜びを感じた。 この子たちはやがて地域の担い手となる人々である。この子たちが大人になって地域活動や公民館活動に関心を持ち、活躍してくれることを願いながら、成長を楽しみにしている。 新型コロナウイルスの感染拡大について 新型コロナウイルスの感染が急速に進み、遂に垂水市も感染者が 11 人を超えている。私たちもいつ感染してもおかしくない状況である。このよ

	うな中で、受験を控えた中高生は家族ともども不安でたまらないであろう。 1月7日には政府が1都3県に緊急事態宣言を出し、人の流れを遮断しようとしている。マスコミによると、飲食業や観光・旅館業の打撃はことさら大きく、倒産する店や会社が次々に出ている。また、職を失った人は生活が成り立たなくなり、家を手放し、所持金も底をつき、この寒空に路上生活を余儀なくされる人も出ている。本当に、コロナの及ぼす影響は計り知れないものがある。 小・中学校においては、感染予防のためにこれまで以上の神経を使って、消毒や換気をしないといけない。先生方には授業のほかにこのような作業まで出てくると限界があると思う。鹿屋市ではコロナ対策のために主婦を雇い、子どもたちが授業時間の間に水道の蛇口やトイレのドアなど消毒液のついたタオルで拭き取ったり、アルコール消毒したりする専用の人を置いていると聞いた。 このような対策はぜひとも必要だと思うが、垂水では考えていないのか、「報告」の場ではあるが、市内の学校の状況はどうか教えてもらいたい。
教育長	垂水市では、現在までに11人の感染が確認されており、その中に小学生1人、中学生1人が含まれている。今日から始業式ということで心のケアを含めて誹謗中傷、差別などのないよう指導を徹底するように各学校に指示している。そのような中で、消毒を含めたコロナへの更なる対応という部分については、あえて外から人を入れることは考えておらず、引き続き職員をもつての感染指導、防染対策を徹底していこうとしているところである。
学校教育課長	国の「スクールサポーター制度」というものがあり申請したが、小規模校が多い本市は残念ながら対象とならなかった。各学校では、放課後の消毒など学校職員全員でいろいろとやってくれている。垂水中央中学校の事例が新聞でも紹介されたように、寒いときには上着を持ってきていいという校則にはない対応を各学校でしていただいている。マスクについても、着けなくてもいいところでも着けてくれているなど、垂水市の学校は対応がよくできていると思う。今後も教育委員会と各学校はもとより、市保健課及び保健所など他部署との連携をしっかりと図りながら対応していきたいと考えている。
葛迫委員	コロナ禍による各種イベントの開催について 例年、12月から1月にかけてのイベントで毎年開催されていた「和田英作・和田香苗記念絵画コンクール」、垂水市商工会主催の「サンタと遊ぼうクリスマス会」、「垂水市成人式」がコロナ禍の中で、中止や延期という事態となった。 特に、成人式は新成人にとっては一生に一度の節目の行事ということで残念な思いをしたのではないかと思います。延期となった今回の成人式がいつ開催されるか見当もつかない今の状況だが、いい時期に開催されることをお願いしたい。

	また、垂水街角美術館でも1月11日から3月28日まで「井ロズズ子展」を開催するが、初日に予定していたオープニングイベント「井ロズズ子氏の在りし日を語ろう」は中止とした。また、「井ロズズ子展」期間中に実施しようと考えていた「子ども絵画塾」は延期とし、いい時期を見計らって開催したい。今回の「子ども絵画塾」は、井ロズズ子さんが長年描かれていた「ふるさとの恵み（自然の恵み）」を絵皿に描き、毎日食事に使おうとする絵画塾である。 新型コロナウイルスの収束が見えず、中止や延期となったイベントや企画がいっぱいで子どもたちがかわいそうである。絵を描くことが大好きな子どもたちのために、「子ども絵画塾」などの企画は今後もどんどん続けていきたいと思っている。
田之上委員	垂水中央中学校校内長距離走大会について 12月に開催された垂水中央中学校の長距離走大会に、学校応援団活動の一環で参加させてもらった。 記録、あるいは完走を目指して懸命に走る子どもたちと、それを応援する保護者や地域の方々の姿があり、いい光景だなと思った。その中で、かなり後ろの方を苦しそうな感じで走っていたひとりの3年生の男子生徒の周りを走り終えた数名がしばらく伴奏する姿が見られた。その生徒は最後まで頑張り無事にゴールすることができた。その光景を見て、3年生となり最後の持久走大会をクラス全員で完走しようという子どもたちの強い絆を感じた。 冬休みの児童クラブについて 本市でもコロナ感染者が出て、緊張した状態で迎えた冬休みとなり、保護者の方々も考えてくださったのか、児童クラブは例年より少なめの来所人数であった。来所した20人弱の子どもたちを半分ずつに分けて見ることができたのは幸いだった。 子どもたちは宿題や工作をしたり、天気のいい日には外遊びなどをして元気いっぱいだった。そして、私たち職員は今まで以上に手洗いや消毒など気を付けて過ごした冬休みだった。 街中は例年より人も車の通りも少なく、家族で静かに過ごした年末年始だったのかもしれない。それでも、「クリスマスプレゼントは〇〇を貰ったよ。」「お年玉を〇〇円貰ったよ。」「餅つきを手伝ったよ。」などと笑顔で話してくれる様子を見て、コロナ禍の中でも子どもたちは楽しい冬休みを過ごしたのではないかと思ったところである。
福里委員	子どもたちの家での遊びについて 子どもたちが園から帰ってから家で何をしているのかが気になり、幼稚園でアンケートを行った。 「休みの日にどんな遊びをしますか。」の質問には様々な答えが返ってきて、一番多かったのが「ままごと」で、ほとんどの子が室内遊びであった。 「メディア機器を使用しますか（テレビを含まず）。」の問いには、46人

	中「はい」が 29 人、「いいえ」が 17 人で、一番使用する機器がスマホだった。大体の子が使用時間 1 時間以内だったが、毎日 2 ～ 3 時間が 4 人もいることにびっくりした。 「室内遊び、戸外遊びのどちらを好みますか。」の問いに対しては、戸外遊びが好きな子が多かったが、実際には親の都合で外で遊ばせてあげられないことが保護者の悩みであるようだった。 実際に、体力、運動能力の面は園児でも下がってきている。ボールを投げられない子、ボールが蹴れない子、20 メートル走が 12 秒もかかってしまう子がいたり、鉄棒でぶら下がりをしてもほとんどの子が 20 秒くらいで降りてしまうので、少なからず外遊びの少なさが影響していると思う。
教育長	福里委員がスマホの使用時間の話をされたが、私も子どもたちのスマホの使い方が気になっていて、まさに今、社会教育課と学校教育課が連携して、各家庭でのスマホ、ゲーム、タブレット等の使用に関してどのように話し合いをしてどんな決まりを作っていけばいいのか、市 P 連にも協力を貰いながら調査を実施しようとしているところである。
教育長	垂水中央中学校では、SNS の使い方について生徒会が取りまとめたものがあり、その資料も併せて生指連や市 P 連などの役員の方に集まっていたいて、取りまとめて最終的に一枚のポスター形式にしたものを各家庭に配布したいと思っている。 これは今やらないと手遅れになる気がして危機感を持っている。今やスマホが子どもたちの面倒を見てくれているようなもので、結果として昼夜逆転になっている子どもたちもいる。これで本当にいいのだろうかと警鐘を鳴らす意味でもそういうポスターを作って情報発信していきたい。 国の緊急事態宣言について 昨日、国によるコロナの緊急事態宣言が発出され、今後ますます厳しくなっていくような状況である。徐々に収束の方向に向かっていくと思うが、その間、教育委員会として垂水市の子どもたちをコロナからしっかりと守っていこうと思っている。 コロナに感染させない衛生面の対策だけに限らず、感染したことに対する誹謗中傷、差別、偏見などから子どもたちを守ることが大事であり、そういうことも含めて学校で十分な対策をとって、いい形で三学期を終えたい。 年末年始の（冬休みの）過ごし方について コロナ禍のため、いつもとは違う年末年始となった。例年ならば忘年会や新年会など人と会う機会が増える時期であるが、なかなかそれが叶わない。あらゆるものが自粛となり、人と接する機会が少なくなった。 そのような状況の中で、子どもたちは新しい年を迎えたという気持ちが持てたのだろうかと思なった。将来への夢と希望をしっかりと持って新年を迎えたことを願いたい。 私自身はゆっくり過ごせた年末年始であった。時間がたっぷりとあったのでテレビでいろいろなスポーツを観戦させてもらった。箱根駅伝では、

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長 6 閉 会	最終 10 区で大波乱があり、創価大学は駒澤大学にまさかの逆転負けを喫した。 駅伝に限らず、サッカーやラグビーなど高校生、大学生が一生懸命頑張る姿に、改めてスポーツはいいなと思ったところである。 本市においては、1 月 5 日の成人式が延期、6 日の消防出初式は中止となり、今後予定していた落語講演会やフェンシング垂水カップ大会もやむを得ず中止を決定した。中止や延期となった行事やイベントで成人式など心に残る大事なものは時期を見計らってぜひ実施したいと考えている。 三つの指標（結果・原点・創造）について 新年を迎え、三つの指標にこだわって仕事に取り組むように教育委員会職員に対して話をしたところである。 一つ目は、結果を出すこと。結果をとにかく残す。そのためには過程を大事にして業務を進めてもらいたい。 二つ目は、原点に返ること。何のために事業をやるのか、業務の原点はどこにあるのかということを見据えて担当業務に当たってもらいたい。 三つ目は、新たな発想で創造していくこと。コロナ禍だからこそ新しい発想が求められる。何をどのように工夫すればできないことができるようになるのか、考えながらやってほしい。 「結果・原点・創造」、この三つの指標を、再度、行動の指標にして業務を推進してもらいたいと思っているところである。 4 課長から、12 月 11 日から 1 月 8 日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、2 月 9 日（次回開催日）までの行事予定についてお知らせした。
---	--